

## 学 長 告 辞

入学生諸君、琉球大学へのご入学、おめでとう！ 諸君のこれまでの努力と精進を称え、心からお祝い申し上げます。また、入学生のご家族・保護者の皆様にも衷心から祝福を申し上げます。

本日、ここに琉球大学同窓会と琉球大学後援財団の関係者、並びに琉球大学名誉教授の先生方、ほか多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、平成 25 年度の学部及び大学院の入学式を挙げていくことは誠に喜びにたえません。

琉球大学は、「この沖縄の地に高等教育の学府を！」という県民の強い願いにより、一九五〇年に設立され、ミシガン州立大学ミッションの指導によって大学運営の基礎が築かれました。一九六六年から琉球政府立大学となり、一九七二年の日本復帰によって国立大学となりました。このように、本学の歩んできた道のりは、他には見られない独自性を有しておりますが、その底流にあったのは「地域のための大学」という考えでした。

本学の伝統と特色を生かし、百年後を見据えた大学運営の中で、入学生諸君が充実した学生生活を送ることができるよう、私ども教職員一同は皆さんをしっかりとサポートして参ります。

琉球大学が立地する沖縄県は、国内で唯一、県域が島々のみで構成されている島嶼県です。島嶼とは、周りを海に囲まれた島のことを言います。島嶼地域は、面積こそ小さな陸地ですが、固有の生態系と特有な歴史・文化を有し、人々の生活が自然と文化と調和する形で営まれています。島の人々は、生活の知恵・叡智によって、自然環境と共生し、伝統文化を育んできました。それぞれの島々が個性を発揮し、多様性をもつ沖縄県の特徴を醸し出しています。

このような島嶼地域に立地する琉球大学の強みや特色が、島嶼性に起因しているのは言うまでもありません。本学の教育研究活動において、島嶼、海洋、亜熱帯性気候などを生かした様々な特徴的な取り組みがなされています。琉球大学で学ぶのは、私どもが慣れ親しんだ陸の発想ではなく、海の発想で物事を考えてみるよい機会でもあります。大学では、単に視野を広げるだけでなく、視座を変えることも学んでください。

この地球も、広い宇宙から眺めると、小さな一つの島に過ぎません。島は、単純でいて複雑な構造をしていますので、地球の縮小版かもしれません。島の **sustainability** 持続可能性を考えることは、かけがえのない地球の持続可能性を考えることにもつながります。

琉球大学は、アジア・太平洋地域の大学との間に知の津梁、いわゆる学問と知識の架け橋としての役割を担うこととしており、将来像として、アジア・太平洋地域における卓越した教育研究拠点大学の構築を目指しております。

さて、今、日本の大学には改革の嵐が吹き荒れています。中央教育審議会は、日本の大

学を「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」と変えていくことを企図しています。

経済を中心とするグローバル化や少子高齢化、情報化の進展、さらには地震や津波などの震災や自然災害の襲来といった大きな社会変化の中、労働市場や産業・就業構造の流動化などによって将来予測が困難になっている今の時代を生きる若者や学生にとって、大学での学修が次代を生き抜く知恵と叡智になるかどうかは切実な問題です。

若者や学生の「生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最適解を導くことができる能力」を育成することが、大学教育の直面する大きな目標になっています。同時に、若者や学生が夢や希望をもてる社会を作り上げる責務をわれわれ大人は負っています。

琉球大学では、大学教育の質を高め、グローバルに活躍できる人材を育成するための学士教育課程として、「琉大グローバルシティズン・カリキュラム」、略して **URGCC** と呼ばれますが、これを平成 24 年度入学生から適用し、実施しております。

**URGCC** は、情報リテラシーやコミュニケーション・スキルなどのスキル系の実務型や知識注入型の教育が主体のカリキュラムでは決してありません。これからの時代の教育の目的は、叡智を持ち、人生の困難な諸問題に立ち向かうことができる強靱でしなやかな精神、すなわち、内面的な強さを持ち、叡智豊かな、自律した創造的な人間へと学生諸君が育つのを助けることであると考えています。

また、大学院については、研究者として自立して研究活動を行うに足る、または高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍しうる、高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを大学として支援しております。

大学において学問を究める目的は、博識になり、社会で成功し、出世し、安定志向のみの人間になることではなく、真に大切なものは何かを見抜く力を備え、存在の本質を知覚しうる総合的な知性としての叡智を培うことです。そのことによって、生きることや命の全体を総合的に理解でき、内面的強さをもった創造的人間として社会に羽ばたき、社会で大いに活躍できる人材になれるのです。そのためには、何よりもまず学生時代に培う自らの叡智に目覚めることです。そのことによって、諸君が強く、自由な、自律した人間に成長し、平和な人間関係を作り上げることができるものと確信します。

既に述べましたように、琉球大学は、他の国立大学とはその設立の経緯が異なっております。詳細は、『琉大物語』などの著書に譲りますが、一九五〇年五月二二日に第一回入学式を挙行し、開学しました。ただし、開学式典と学長就任式は、翌年の二月十二日に行われました。この二月十二日は、第十六代アメリカ大統領、エイブラハム・リンカーンの誕生日だったのです。リンカーンの誕生日にリンカーンを引き合いに、ダグラス・マッカーサー元帥から本学に贈られお祝いのメッセージの中に、「この大学の将来はその資源の大き

さに依存するものではなく、その資源の質とそれを使用する際の叡智に依存する」という件があります。

皆さん！ 在学中に総合的な知性としての叡智を磨き上げ、物事の本質を見抜く人間に成長してください。琉球大学の建学の理念は、「自由・平等、平和・寛容」となっています。これは、リンカーンの理念、とりわけゲティスバーグの演説と二期目の大統領就任演説に基づくものであると言われています。この理念のもと、琉球大学はアジア・太平洋地域に光り輝く大学となることを目指していきます。

本学に入学を許可された学生は、学部学生1,645名、大学院生325名、計1,970名です。私ども教職員と在學生は、諸君を心から歓迎いたします。どうぞ、今日の新鮮な気持ちと大学で学びたいという強い決意を卒業式・修了式まで持ち続け、稔り豊かな学生生活を送ってください。私どもは、そのために頑張る諸君を支え続けていくことをお誓い申し上げ、私の告辞といたします。

平成二十五年四月三日吉日

国立大学法人琉球大学長 大城 肇